

「姫路市文化コンベンションセンター」2021年秋、姫路に誕生



現在の文化センターと音楽演劇練習場に替わる文化芸術の新たな拠点施設「姫路市文化コンベンションセンター」が、JR姫路駅の東約700mの場所に誕生します。大・中・小の3つのホールに加え、スタジオ、展示場、会議室などからなる複合施設で、2021年秋のオープンに向けて工事が進められています。

施設の概要を紹介します。客席数約2,000席、播磨圏域で最大級となる大ホールは音響性能を重視した設計で、クラシックやポップス、吹奏楽等の音楽公演はもとより、舞台芸術や講演会など多彩な催事に対応します。客席は3階席まであり、舞台との距離を感じさせない臨場感あふれる空間を生み出します。約700の客席が扇形に広がる中ホールは演劇公演や室内楽をはじめとした文化芸術公演のほか、各種式典などさまざまなジャンルの催しに対応します。気軽に利用でき、鑑賞もしやすい約180席の小ホールは小規模のコンサートや個人・団体の発表会のほか、ワークショップや体験教室などにも適

しています。それぞれのホールには車椅子席や多目的鑑賞室を備えており、ユニバーサルデザインにも配慮しています。リハーサル室を兼ねたメインスタジオは練習、発表等にも対応でき、大・中・小の計6室あるスタジオは楽器の練習から演劇・ダンスの稽古まで規模に応じて幅広い用途に利用できます。

このほか約4,000㎡の展示場、10室ある会議室に加え、カフェやキッズルーム、市民サロンなども備え、市民や文化団体の皆さんの多様な活動にご利用いただけます。

新たな施設は、播磨の文化芸術と交流の拠点施設として、まちに賑わいと感動を創出するほか、文化芸術による市民文化の振興、都市魅力の創造・発信といったさまざまな役割を担うことが期待されます。



大ホール

中ホール

小ホール

【施設の概要】

ホール	大ホール(約2,000席)、中ホール(約700席)、小ホール(約180席) メインスタジオ(リハーサル室:約270㎡)
スタジオ	大1室(約160㎡)、中2室(各約70㎡)、小3室(各約17㎡)
展示場	屋内展示場(約4,000㎡)、屋外展示場(にぎわい広場:約1,600㎡)
会議室	多目的ホール(約690㎡、3分割可)、中会議室5室(各約80㎡)、 小会議室2室(各約35㎡)
その他	平面駐車場(約400台)、駐輪場(約100台)

おもちゃで振り返る「平成」 日本玩具博物館で「平成おもちゃ文化史」開催中



日本玩具博物館で、同館では珍しい同時代的コレクションの展覧会「平成おもちゃ文化史」が開催中です。

「本来は子どものための

玩具が中高生や働く世代、シニア世代にまで広がりをもせたのが平成時代の特徴のひとつ」と担当学芸員の原田悠里さん。テレビアニメのキャラクター玩具が次々と登場し、「美少女戦士セーラームーン」などのなりきり玩具のほか、「ポケットモンスター」の世界観は平成を通じて大流行。「ファミリーコンピュータ」や「ゲームボーイ」、社会的ブームとなった「たまごっち」などのゲーム機器に、子どもも大人も夢中になりました。また、のり巻きやパン作りなど、実際に調理できるクッキング玩具も数多く登場しました。

バーチャルペット「ファービー」やロボット玩具「AIBO」が登場する一方で、「ビックリマンシール」やアイドルのプロ

マイドといった駄菓子屋玩具、「甲虫王者ムシキング」などのトレーディングカードゲームが大流行。大量生産・大量消費される玩具や電子化の影響を受けた玩具、バーチャルゲームを危惧した玩具デザイナーらの活動により、手作りおもちゃや木製玩具に再び注目が集まったのもこの時代でした。また、20年代には各地で多くの自然災害が発生。室内で楽しめるアナログ玩具が見直されるきっかけとなりました。

このような商品玩具約350点を、昭和後期(50～60年代)、平成初期、10年代、20年代の4コーナーに分けて展示。「平成はじつに多種多様な玩具が登場した時代で、その数は数億種類ともいわれています。日本のアニメ文化が世界に定着したのもこの時代。外国からの来館者の中にはおもちゃを背景に自撮りされる方も」と原田さん。国籍や年齢を問わず、誰もが楽しめる展覧会となっています。

※詳細は8ページをご覧ください。



お菓子のおまけも年代を追って紹介

問 日本玩具博物館 ☎079-232-4388